

主管 總務

昭和19 三四四 一暗 南京 一月十五日〇九〇〇發
本省 十五日一五三五着

青木大東亞大臣

谷 大使

第三八號

(本年度ニ於テ實施スヘキ重要政策ニ關スル件)

貴電合第二七號ニ關シ

當館トシテハ、鑿ニ太田參事官上京ノ際ニ點ヲ除キ御同意ヲ得タル大
使館現地軍作成「同盟條約締結ニ伴フ對華協力要綱(案)」ノ第一
次促進案ヲ審議室ニ於テ決定シ各事務所ニモ訓令ノ上「促進案」ノ
對照ニ便スル爲ニ點ヲ削除セル要綱ヲ其ノ儘附記シ置ケリ「對支處
理根本方針」ニ基ク諸施策ノ結實方促進スルニトシ右成果ヲ見タル

S 1.1.1.0 - 27 , 1965

0040

後更ニ進シテ第二次第三次ノ促進案ヲ研究致度キ所存ニ付御含アリ

度尙冒頭貴電ニ依レハ目下中央ニ於テ重要ナル點ニ就キ研究中ナル

趣ノ處大體ノ輪廓ニテモ可ナルニ付當方參考迄隨時聯絡アリ度シ

各大使館事務所長へ轉電セリ

0041

S 1.1.1.0 - 27 1966

往電第一五八號ニ關シ

本電ハ問題ノ所在及性質ヲ剔抉セル程度ニシテ未タ部内外ノ協議連絡纏リタル具體案ニハ非サルモ折角御取急キノ模様ニ付御參考迄ニ
卑見電報ス

一、權柄單問題

租界返還ニ伴ヒ權柄單問題ヲ解決シ不動產所有權收買市價
所ト直接關係ニ還元セシムヘキ筋ナルモ無條件ニ右手段ヲ講ス
ルニ於テハ課税或ハ登記ニ伴フ收賄ニ妨クラレ不動產轉買ヲ阻害
スル惧大ニシテ市政府側方權柄單問題ノ解決ヲ急クニ反シ所有者
ハ固ヨリ一般市民モ必スシモ之ヲ喜ハス尙上海ノ不動產ハ高度ニ
證券化サレ居ルコト内地ニ於ケル信託ノ比ニ非ス仍テ上海經濟界

0043

8. 1.1.1.0. 27 1967

ノ混亂ヲ救ヒ旁々民心ノ動向ニ副ハンカ爲ニハ權柄單ヲ廢止スル

場合不動產信託會社即チ地產會社ヲシテ引續キ不動產ヲ證券化シ
タル形式ニテ取扱ハシムルト同時ニ右會社ノ責任ニ於テ市政府ノ
收入ヲ確保スルコト必要ト認メラルル處上海ノ地產會社ハ敵產處
分ヲ受ケ未タ活動ヲ再開スルニ至ラサルヲ以テ權柄單問題ノ解決
ハ右地產會社問題ノ處理ト脱合セ措置スルヲ要シ單ニ市政府ノ希
望ノミヲ尊重シ之ヲ解消スルコトハ考慮ヲ要ス

二、地產會社關係

敵性地產會社ニシテ自己所有ノ不動產ナク專ラ不動產信託即チ權
柄單ノ取扱ヲ業務トセシモノハ目下中支那振興ノ管理下ニアリ既
ニ權柄單ノ書換完了セル今日トナリテハ此等地產會社ノ清算ヲ急

0043

8. 1.1.1.0. 27 1968

キ可ナルモ不動産信託ト同時ニ自ラ不動産經營ヲ業務トセル地產
會社即チ目下上海恒產ノ管理下ニアル分ニ付テハ支那側株主及使
用支那人數萬ニ上ルニ鑑ミ萬一之ヲ清算ニ附シ各企業形態ヲ解消
スルニ於テハ其ノ影響ノ及ヲ範圍極メテ廣大ニシテ上海經濟ヲ混
亂セシムル危險アリ帝國政府トシテハ敵性不動産ノ如キハ戰爭遂
行上必要ナラサルヲ以テ之ヲ帝國歸屬トセサル方針ナルカ如キモ
前記反響ヲ考慮セハ假令消極的トハ言ヘ日支ノ結束ヲ阻害シ戰爭
遂行ニ妨害アリト認メラルルニ付テハ寧ロ政府ニ於テ前記方針ヲ
再検討シ日本側ニ於テ實質的ニ其ノ勢力下ニ置ケテ有利トスル土
地建物及日本人カ主トシテ店子トナリ居ル不動産ヲ經營スル地產
會社ニ付テハ敵國人持株ヲ帝國政府ニ歸屬セシメ日支合辦トシテ

現在

0044

S 1.1.1.0 - 27

1969

現在ノ企業形態ヲ繼續スルコトニ依リ支那側株主及使用人ノ利益
ヲ保護スル一方其ノ他ノ地產會社ハ之亦清算ニ附スルコトナク敵
國側持株ヲ國府ニ移管シ引續キ支那人トシテ經營セシムルコト
上海ノ經濟市場就中前項不動産證券化カ高度ニ發達セル特殊事
ニ適應スルモノト認メラル尙右ニ依リ敵性地產會社ノ解決ヲ圖リ
タル上ハ之等ヲシテ權柄單解除後ノ地產信託業務ヲ營ムノ特權ヲ
與ヘシメ經濟ノ安定ヲ圖リ得ルモノナルヘシ

三、上海恒產會社

本件ニ付テハ既ニ電報セル通りナルカ前二項ノ如キ處理ヲナス結
果トシテ國民政府ニ歸屬スヘキモノハ多クハ株券ニシテ其ノ他不
動產ノ移管アリトスルモ上海恒產ニ對シ出資セシムルニ適セス依

0045

S 1.1.1.0 - 27

1970

テ現在ノ恒産調整案ハ實行不可能ナルヘキ處場合ニ依リテハ上海恒産ノ日本側持株ヲ支那側民間ニ譲渡スルコトヲ止メ前項支那法人トナル地産會社トノ合併モ考慮シ得ヘシ

四 農村組織ノ建設

共產黨並新四軍等ニ對スル思想及政治工作トシテノ觀點ヨリスルモ將又治安工作、増産工作及之ヲ通スル民心收攬ノ方策トシテモ農民組織ノ促進ニ依リ、地方政治力ヲ都市ノ點ヨリ農村ノ面ニ及ホスコトハ焦眉ノ急務ト思考セラレ最近共產黨ノ謀略活動ノ活潑化ニ鑑ミ時ニ其必要性カ痛感セラルル所ナリ仍テ國民政府ヲシテ農村合作社ノ擴大強化ヲ急務セシムルト共ニ我方トシテハ之ニ強力ナル支援ヲ與フル爲メ優秀ナル指導員ヲ派遣シ農業技術ノ指導其

0046

S 1.1.1.0 - 27

1971

他各種ノ斡旋ヲ爲サシムルヲ必要トスヘシ

五 第一區公署問題

一、八兩區合併ハ近ク實現スルキ處上海ノ中心市區ニ對シ市政府ト拮抗スルカ如キ第一區公署ノ存續ハ大上海ノ行政ヲ依然トシテ租界地區及其ノ他ノ地區ニ二分シ一元の市政ノ實施ヲ妨クル結果トナリ日本側ニ於テ第一區公署ノ存續ヲ主張スル限リ大上海ノ政治經濟思想各般ニ且ル再編成殊ニ日支ノ提携實現カ阻害セザルニ趨勢ニアリ固ヨリ右ハ過渡期ノ現象トシテ免レサル所ニシテ市長自ラモ觀念シ居ル處既ニ市長ニ於テ租界返還當時ヨリ市政府及第一區公署ノ合併ヲ希望シ今次一、八合併ニ際シテモ公文ヲ以テ之ヲ香ハセ來リ居ル事實ニ鑑ミ右現行制度ヲ果シテ日支支持スヘ

0047

S 1.1.1.0 - 27

1972

キヤハ眞劍ニ檢討ヲ要スル問題ナリ尤モ日本側ヨリ進ンテ之ヲ促進スルコトハ考物ナルカ市長ノ意圖ヲ日本カ拒否スル態度ヲ採ルヤ否ヤハ今後ノ市政運営及日支提携上肝要ナル關鍵ヲナスヘキヲ以テ帝國政府ニ於テ本件ヲ再檢討シ將來ノ方向ヲ内定シ置クヲ可トスヘシ

六 顧問問題

顧問制度ハ同盟條約ノ締結ト共ニ廢棄セラレタルカ國府ノ招聘ニ應スルノ解釋附キニテ今尙存續セリ元來經濟顧問ノ名ニ於テ國府ノ政治指導ヲナスコトハ基本條約當時ニ於テハ日本側ノ内部的事情ニモ繼ミ必要ナリシト雖モ既ニ大東ニ於テ國府ノ協力業務ヲ主宰スル一本立ノ態勢トアレル今日トナリテハ經濟顧問ハ純然タル

0048

1973

S 1.1.1.0 - 27

經濟技術顧問トシテノミ其ノ存在理由アルヘク又經濟顧問技術顧問ハ完全ニ大使ノ指揮下ニアルヲ要スルト共ニ顧問カ支那側ヲ代表シ日本側トノ交渉機謙タルカ如キ現行慣例ハ改ムヘキモノト認メラレ本件ハ之亦眞劍ニ檢討アルヘキモノト思料ス

七 國府側ノ協力問題

次ニ前項六トモ關連スル根本問題ナルカ日華新關係、大東亞建設ノ具現ニハ支那側ノ積極的協力態度ヲ必要トスルニ拘ラス從來新政策トハ國府ノ言分ヲ當否如何ヲ問ハス唯々諾々追従スルコトニアリトノ考ノ下ニ大東亞省出先機體カ負擔スヘキ所謂協力業務ニ付テモ顧問ニ一任スヘシトノ主張スラ行ハレタルカ(此ノ場合ニ於ケル大使館ノ交渉相手ハ國府ニアラスシテ顧問トナル奇現象ヲ

0049

1974

S 1.1.1.0 - 27

呈ス。同盟條約ノ締結ニ依リ又戰爭ノ現段階ニ於テ我方カ更ニ強
力ニ新政策ヲ實施スレハスル程國府モ之ニ對應スルヲ要シ從テ國
府ヲシテ我方國策ヲ納得セシメ其ノ願ヲ立テ乍ラ之ニ協力セシム
ル爲國府ヲ支援鞭撻スルコト愈々肝要トナレルカ、同時ニ國府從
來ノ一黨一派同志的結合ノ努力ノ目標ノ一半タル對日關係カ既ニ
清算サレタル以上今後ノ目標ハ全支那ノ統一ニアリ其ノ第一歩ト
シテハ和平地區ノ民心歸一ニアルヘキヲ以テ國府トシテハ其ノ機
關人事ニ於テ黨派ヲ論セス野ニ遺賢ナカラシムル方策ヲ採ルコト
肝要ナルヘシ上海特別市ニ中國人ノ諮問委員會ヲ置キ或ハ國府ニ
參議會ヲ設ケ或ハ張一鵬ヲ司法行政部長ニ登庸セシ筆法ヲ徹底セ
シメントスルカ如キ人等ノ刷新人心ノ糾合換言スレハ國府カ和平

0050

S 1.1.1.0 - 27

1975

地區就中上海ニ於テ人氣アル政府トナルコトハ後者ノ施策ニ屬シ
顧問制度ノ再檢討及我方新政策（就中經濟部門）強硬實行ノ如キ
ハ前者ニ屬スヘシ當方トシテハ國府三大政策ノ一ナル増産問題ニ
付特ニ上海ヲ中心トシ有ユル困難ヲ排除シテ至急支那側輕工業ノ
復舊ヲ圖リ以テ増産力架空ノ「スロトガン」ニ陥ラサル様協方ス
ヘク手配中ナルカ右ニ依リ支那民心カ我方ニ對スル信頼ヲ深ムレ
ル程愈々國府ノ自發的努力ニ對スル要請モ昂マル次第ニシ
テ幸ヒ上海市政府ニ於テ最近頓ニ自發的ニ此ノ難局ヲ打開セント
スル氣勢ヲ示シツツアルコトハ結構ナルカ右ハ國府ニ對シテモ均
シク期待スヘキ所ナリ要スルニ日本側（軍及顧問ヲ含ム）ノ理念
ヲ統一シ國府ニ對スル協力態度及施策ヲ一元タラシメ何等阻礙ナ

0051

S 1.1.1.0 - 27 1976

カラシムルヲ要スル處此ノ點亦中央ニ於テ再検討アラシコトヲ切望ス

八、南方地域トノ關聯

最後ニ新政策ノ眞義目的ハ漸ク支那側ノ識者ノ正シキ認識ヲ得ツツアルモ國府及民間一致ノ積極的協力ニ依リ支那事變解決上其ノ結實ヲ期待シ得ルハ今後ノコトニシテ此ノ見地ヨリ同盟條約締結後ニ於ケル國府ノ三大政策カ何レモ國內ノ再建ニ指向サレタルハ當然トハ言ヘ結構ノコトナルカ從來ノ經驗ニ教スルニ國府ノ努力カ果シテ中國民間ノ期待ニ副ヒ得ル底ノモノナルヤハ相當疑問ナルヲ以テ之ヲ見越シ前項所述ノ如キ我方一致ノ支援ヲ得ルニ絶對的程度ニ於テ必要トスル處斯クテモ尙一有ノ三大政策カ復又

0053

「スローガン」ニ終リ而モ國府カ内政問題ヲ捉ヘタルカ故ニ新政策カ行詰マレリトノ誤解ヲ起スナキヲ俾置シ得サル懸念アリ仍テ之ヲ救済策ハ予メ攻究シ置クヲ要スル一方支那事變解決及大東亞結集ノ大局的立場ヨリ考フルニ政治經濟及思想部門何レノ觀點ヨリ検討スルモ支那ト南方地域、就中占領地域トノ關係ヲ現在及將來ニ亘リ如何ニスルヤノ大問題ニ達着スル次第ニシテ右ハ單ニ現住南方華僑ニ關連シテ限定サレタル範圍内ノ事項ニ止マラス戰後ニ於テ帝國カ果シテ對支新政策ヲ堅持發展セシムル意向アリヤ否ヤニ關スル漢民族ノ死活的疑問ニ對スル回答トシテ從テ其ノ規模ニ於テ速カニ其ノ根本方針及施策大綱ヲ決定シ必要ニ應シ之ヲ宣示スヘキモノナルヘシ即チ支那事變ハ蔣介石ノ意志ニ依リ解決シ

S 1.1.1.0 - 27

1978

0052

S 1.1.1.0 - 27

1977

得ル時機ハ過キ去リ漢民族ノ興廢カ民族全般ノ重大關心事トシテ
考ヘラルルニ至レル今日ニ於テハ漢民族ノ發展カ支那國外ニ於テ
モ日本ノ勢力、支援ノ下ニ許容サルルコト明トナラハ彼等チシテ
所謂共榮ノ眞意ヲ理解セシメ事變解決上ノ一重大關鍵トモナシ得
ヘク又延ビテハ大東亞共同宣言ヲ裏付クルノ効果モ期待シ得ヘシ
本件ハ大東亞戰爭縮短段階ニ於テ既ニ方針樹立サレアル問題ナリ
ト承知スルモ再檢討ヲ切望スル次第ナリ

0054

S 1.1.1.0 - 27 1979

張大總極秘第二七六號

昭和十九年一月廿日

在張家口大日本帝國大使館事務所長
特命全權公使 岩崎 民男

大東亞大臣 青木 一男 殿

昭和十九年度大東亞政策ニ關スル件

本月十一日貴電合第二七號首題ノ件ニ關スル當館腹案左記ノ通ナルニ

付御參考ニ資セラレ度

追テ具體策確定實施ノ際ハ當館ニ隨時御連絡相成度

記

第一 大東亞ノ結集、戦力増強、民生ノ安定ハ相互ニ關聯シ何レモ大

0055

S 1.1.1.0 - 27 1980

東亞戰爭完勝、大東亞建設ニ不可缺ノモノナルモ現時ノ苛烈ナル
戦局ニ鑑ミルトキハ本年度施策ノ重點ハ戦力増強ノ一點ニ集中ス
ルヲ要ス而モ大東亞結集ノ具体化即チ大東亞共同宣言五原則ノ實
踐ヲ大東亞各國各民族ヲシテ自ラ完全ニ行ハシムルヲ未タ至難ナ
ルコトニ屬スルヲ以テ彼等ヲシテ其ノ政治、經濟、文化ノ程度ニ
應シ各々戦力ノ増強若ハ帝國戦力ノ増強ノ寄與ニ努メシムルコト
ハ右各國並ニ各民族カ其ノ縮スル崇高ナル使命ヲ自覺セシメ大東
亞結集ヲ促進セシムルニ與ツテカアルヲ以テ右重點形成ノ爲第二
義的施策ハ犠牲ニ供スルモ亦已ムヲ得サルヘシ

具體策

一、大東亞結集

- (イ) 帝國ノ道義的諸施策ノ實施（殊ニ既ニ表明セル政策ニ就テ）
- (ロ) 大東亞各國各民族ノ親和ニ資シ且戦力増強ノ手段トシテ大東亞各種會議ノ開催（右會議ニ於テ具體的共同目的ノ設定相互寄與ノ促進、各地域國土計畫ノ議題考慮セラル）
- (ハ) 強力ナル宣傳啓發ノ實踐（必勝信念ノ植付、大東亞戰爭ノ道義性並ニ米英必敗及野望ノ暴露強調、長期戦ノ必然性ノ理解附與敵側宣傳ノ破推（虚偽ノ實證揭示）各國家各民族ノ固有文化ニ關スル誇ノ發見之カ宣揚ニ依ル文化昂揚ノ促進（例之安南古代文化ノ價值ノ宣傳）
- (ニ) 各國各民族ノ民生安定ノ向上促進支持（食糧自給、増産ノ技術上ノ援助、交易ノ円滑化、餘剩特産物ノ經濟的利用等）

0056

S 1.1.1.0 - 27 1981

0057

S 1.1.1.0 - 27 1982

(附) 各國家、各民族自体ノ結束強化ノ促進(善爲、有徳人物ノ登用、網紀ノ肅正、吏道ノ刷新、輪轉制改革、強權警察制度ノ強化等ニ依ル官界ノ振肅、軍備並ニ警察機能ノ擴充ニ依ル治安警備ノ強化等)

(ハ) 教育、藝能ニ依ル兒童、青少年ノ獲得並ニ之ヲ通シ家庭ニ對スル總親和精神ノ注入

(ト) 在留邦人ノ資質ノ向上、渡航者ノ嚴選ニ依ル現地民衆ノ信頼獲得並ニ在支邦人ノ組織強化、右組織ニ依ル現地民衆ノ組織ノ結成及相互信和感ノ昂揚

ニ戰力増強

當分ノ間ニ於ケル輸送ノ逼迫、内地經濟ノ限界接近、滿、華等

所謂大陸地理的の近接並ニ同經濟ノ後進性ニ鑑ミ滿、華ニ於ケル大陸經濟ノ運營強化ニ其ノ重點ヲ置ク

(イ) 鮮、滿、華ヲ通スル國土並ニ生活必需品資配合計並ノ樹立及

其ノ速カナル實施(農、工、鑛等各般ニ亙ル既定設備計畫ノ

再檢討各地域ノ行政的阻礙ノ撤廢一地域の割據觀念ノ是正、

勞力ノ融通一之カ手段トシテ各地域ヲ通スル綜合的協議委員

會ノ常置、各大使館事務所、滿洲國白米官吏ノ交流等)

(ロ) 重點産業ニ對スル人的物的總力ノ結集

(ハ) 人員配置ノ再檢討、現地系技術者ノ養成、勞務者ニ對スル

必需物資ノ確保並ニ厚生施設ノ整備褒賞制度ノ實施資金資材

ノ圓滑且迅速ナル配當、可能的機械化ノ促進企業經營者指導

0059

S 1.1.1.0 - 27

1984

1983

S 1.1.1.0 - 27

0058

者ノ資材、資金ノ過大要求、過大消費ノ抑制及責任觀念ノ徹底、生産目標ノ設定)

(ハ)重要物資ノ生産並ニ鬼荷ノ増強

- 1、肥料、種子ノ配給斡旋
- 2、水利事業ノ指導援助
- 3、農業、牧畜業ノ改良指導

(技術及經營上模範經營ノ實施及牧野受容能力ノ再検討)

- 4、見返物資ノ潤澤、適正、迅速ナル配給並ニ見返物資ハ棉糸布、土布、食鹽、日用雜貨、藥品等トシ他地域トノ有無相違ニ依ルモ已ムヲ得サルモノハ輕工業ノ促進ニ依リ地區内ニ於テ自給

0060

6 1.1.1.0 - 27 1985

(ニ)輸送力ノ強化

- 1、積込並ニ揚格設備ノ改善、機械化
- 2、選炭選礦ノ徹底
- 3、不急工事、建築ノ徹底的抑制
- 4、旅客ノ嚴重ナル制限並ニ客車ノ減少
- 5、輸送機關ノ統制、輸送力ノ整備、隣傳制度ノ復活
- 6、自治体制ノ強化ニ依ル輸送力ノ強化
- 7、現地ニ於ケル原料加工ノ徹底

(ホ)各種増産、鬼荷ノ精神運動ノ實施(標語ノ設定、各種褒賞ノ

實施)

三、民生ノ安定

0061

6 1.1.1.0 - 27 1986

- (1) 各國各民族ニ於ケル目標設定ニ依ル民心ノ集中把握（例之國
民政府ノ治安確保、經濟復興、思想肅正ノ實施ノ如シ）
- (2) 各地域ヲ通スル高物價抑制策ノ實施（大陸經濟ノ困難ハ戦ヒ
ツツアル經濟ナルト其ノ後進性ニアルモ之ヲ克服スル爲ノ手
段ノ研究實施）
- (3) 通貨ノ心理的、政治的不安ノ解消促進（例之物價ノ昂騰等ヲ
諷リ喧傳セズ密カニ對策ヲ考究ス）
- (4) 減其教育對策ノ實施（中華民國ニ於テ然リ）
- (5) 重要產業並ニ國策機關關係者ニ食糧及衣料ノ重點配給ノ實施
- (6) 地方施策ニ助力スル部面ニ食糧及衣料ノ次等的配給ノ實施
- (7) 食糧増産ノ實施

0062

S 1.1.1.0 - 27 1987

- (8) 輕工業ノ促進
- (9) 宣傳並ニ自衛力ノ強化ニ依ル敵側ノ宣傳、策謀並ニ匪襲ノ防
遏
- (10) 低物價政策ノ強化並ニ配給機構ノ整備
- (11) 都市下農村下ノ物資交流ノ促進
- (12) 現地系會社、商社ノ活用
- (13) 經濟擾亂者ノ嚴罰

本信與信先 在支大使、北京、上海、廣東

0063

S 1.1.1.0 - 27 1988

昭和19
五〇五七〇
五〇五七五
五〇五七六
五〇五七九
(暗)
新東京 一月十三日一八〇〇發
本省 十三日一八三五着

青木大東亞大臣

梅津大使

第七號

(今年度實施スヘキ重要政策ニ關スル件)

貴電合第二七號ニ關シ

當館ノ總策方針左ノ通

大東亞各國トノ協力殊ニ日滿華關係ノ増進

大東亞各國ヲ打ツテ一丸トナス爲中華民國、「タイ」、比島、「ピ

ルマ」等トノ關係ヲ緊密ナラシムルニ努メ殊ニ日滿華關係ニ重點ヲ

置ク

0064

S 1.1.1.0 - 27 1989

滿洲内各民族ノ戰爭意識ノ昂揚

右ハ滿洲國ノ對日戦力奇異ノ中核タルヘキモノトシテ重視セラルル

キニ付宣傳啓發ヲ通シ之ニ努ム(總策ヲ實施ニ移スニ當リテハ關策

軍報道部ト密ニ連絡シ注トシテ總務廳弘報處、或ハ協和會ヲシテ實

施セシム

滿洲國ノ對外關係殊ニ對蘇關係ノ側面輔導

日滿一體ノ建前ヨリ滿洲國ノ第三國關係ニ對シテハ帝國ノ對外政策

トノ同調ヲ計リ現下益々機微トナレル對蘇關係ニ付殊ニ慎重ヲ期セ

ントス

蘇聯ノ動靜ニ關スル情報ノ蒐集及調査

滿洲國ハ蘇聯隣接國ニシテ東亞ニ於ケル對蘇情報蒐集ノ基地タルニ

0065

S 1.1.1.0 - 27 1990

鑑ミ關係機軸トモ協力シ情報ノ蒐集及調査研究ニ對シ努力ヲ傾倒ス
 ルト共ニ中共ノ動靜ニ關スル情報ノ蒐集ニ協力シ以テ蘇聯ト其ノ隣
 接國間情勢ノ綜合觀察ニ便ナラシム(了)

0066

6 1.1.1.0 - 27 1991

昭和 19
 自 五〇六八〇
 至 五〇六六三
 (暗) 關貢 一月十五日 一〇〇〇發
 本省 十六日 一〇五五着

主管 總總 (兩政)

0067

青木大東亞大臣 澤田大使

第一七號 (館長符號、秘)

(今年度實施スヘキ重要政策ニ關スル件)

貴電合第二七號ニ關シ

御承知ノ適當國ニ於ケル政治産業經濟等ノ草、内面指導ノ範圍ニ屬

6 1.1.1.0 - 27 1992

シ當館トシテハ直接臨英シ居ル次第ニ非サルモ冒頭實電御來示ノ大
東亞ノ結集、戦力ノ増強及民生ノ安定ヲ目標トシテ當國ニ於テ實施
スヘキ諸施策ニ關シ當方氣付ノ點左ノ通電報ス

一、當國ニ於ケル現狀並ニ緊急處理解決ヲ要スル問題ニ付テハ屢次電
報等ヲ以テ報告シ居リ又過波「バトモウ」總理及協力大臣渡日ノ
際東條總理及實大臣ニ對シ詳細御話アリタル譯ニテ折角御考慮中
ノコトト拜察スル處是等問題ハ總テ前記三大目標ニ照シ當國ニ於
テ即急處理ヲ要スル問題ノミナルヲ以テ當地ニ於テ日緬人協力シ
速ニ之カ處理方策ノ獨立ニ努ムルコト勿論ナルモ何分現地限ニテ
ハ解決困難ナルモノ多々有之ニ付中央ニ於テモ是非共御考究ノ上
速ニ實行方御配慮相煩度

0068

6 1.1.1.0 - 27

1993

ニ前記三大目標ニ依據シ當方ニ於テ特ニ重點ヲ置ク事項概テ次ノ通

(1) 「ビルマ」國ノ獨立尊重

今後帝國ノ施策トシテ最モ緊要ナルハ實ニ大東亞諸國諸民族ノ
ミナラス進ンテ中立諸國及敵國側ノ帝國ニ對スル信用ヲ獲得増
進スルニアリ之カ爲ニハ大東亞共同宣言ノ趣旨ヲ具體シ事實ヲ
以テ帝國ノ眞意ヲ證明スルハ最モ效果的ナルコト申ス迄モナキ
儀ナル處當方面現實ノ事態ニ付テ觀ルニ軍事上ノ緊急性大ナル
モノアリテ免レ難キ所トハ言ヘ共同宣言ノ趣旨トハ懸隔アルモ
ノ尠カラサルハ御推察相成ヘキ通ニシテ右ハ敵側謀略放送等ニ
敵スルモ印度。重慶方面ニモ尠カラズ惡影響アル次第ナリ仍テ出
來得ル限り「ビルマ」國ノ獨立體面ヲ尊重スルコト所妥ト存ス

0069

1994

6 1.1.1.0 - 27

(四) 軍民需ノ調整

趣旨ニテ現地ニ於テモ努力シ居レリ
「ビルマ」民衆ニ對シ最少限度ノ生活ヲ確保スルハ凡ニル角度
ヨリ見テ喫緊事ナルハ甲ス迄モナキ處之カ爲ニハ彼等ノ生活必
需品就中食糧衣料住居及輸运力ニ付是非共軍需トノ調整ヲ要ス
ル次第ニテ現ニ現地軍側ト「ビルマ」側トヨリナル合同委員會
ニ於テ右調整事務ヲ處理シ居ルモ「パーキウ」總理ハ小川最高
顧問ノ着任ヲ機トシ新ニ企畫局(GEN. H. B. ALLEN, P. L. ANN
ING, BOARD)ノ如キモノヲ設置シ軍民需ノ調整其他一
般ノ企畫ヲ行ハシムルコトヲ考慮シ居ル模様ナリ(最近「ビル
マ」農務省ノ報告ニ依レハ上「ビルマ」地方ノ食糧不足ハ軍大
問題化シ「ベンガル」州ノ糧ヲ履ム虞アリトナシ軍側ト種々協

加

(三) 生活必需品ノ現地生産力ノ増強及「ビルマ」以外得品ノ供給増
加
「ビルマ」ニ於ケル物資及輸送力ハ軍需タニ充足セ得サレバ状況
ナレハ軍民需ノ調整ニ止マラス更ニ進ンテ生活必需品ノ現地生
産ノ増強及「ビルマ」以外ノ地域ヨリノ供出増加ヲ圖ルハ小絶
以
當必要ナリ右ハ當區ノ深刻ナル「インフレーション」ニ對シテ
テ謂フモ刻下ノ急務ナリト存ス地軍ヨリヲ供給増加ニ付テハ
「バ」總理ヨリモ過放太東亞會議ニ於テ述ヘタレ又東條總理及
貴大臣ニモ陳情セラレタル次第ナルカ更ニ去九月日小川顧問ヲ
加ハタル「バ」總理、本便及軍側司令官ノ月例非公式懇談ニ於

0071

S 1.1.1.0 - 27 1996

0070

S 1.1.1.0 - 27 1995

テ「バ」ヨリ希望崩壊アリ問題ノ要諦ハ輸送力ニ懸ル事ナル事
凡ユル工夫ヲ總ラシ出來得ル範圍ニ於テ實現セシムル莫アリト
思考ス

(了)

S 1.1.1.0 - 27

1997

0072

REEL No. A-0214

0353

アジア歴史資料センター

極秘

中文ニ於ケル本年一月以降主要經濟事項日誌

一月 九日 國府參戰

同甘共苦ヨリ同生共死ヘ

三月十六日 揚子江下流物資移動取締暫行規定ノ實施

全國商業統制總會ノ結成

四月 一日 軍票新規發行停止

支那側觀測(1)軍票廢止ニ依リ法幣ハ發行高ヲ急ニ膨脹ス

ルコト

(2)日本側ハ從來軍票價值維持ニ爲シタル如キ

價值維持ノ努力ヲ爲サナクナルコト

(3)法幣ハ一月九日國府ノ參戰ニ依リ國府側ノ

戰時通貨トナリタルガ今回日本側戰時通貨

ヲ兼マルコトトナリタルコト

(4)法幣インフレ必至ナルベキコト

四月 七日 物資買占メ處罰令(國民政府令)

金融機關ノ職員ニシテ投機買占メヲ爲スモノ及一般ニ投

機買占メヲ爲シ市價ヲ左右シ市場ヲ擾亂スル者ハ嚴罰ニ處

ス

四月 九日 陳財政部長、袁實業部次長、上海市政府趙秘書長、商統

會陳監理官協同シテ上海囤積調查ヲ開始ス、主トシテ手

形交換所ノ調査、四月十二日ヲ以テ調査打切り

四月三十日 國府囤積事件ノ真相發表

S 1.1.1.0 - 27 1999

S 1.1.1.0 - 27 1998

0073

(イ) 振華公司總經理韓拱北ノ綿糸布囤積ノ處罰
(ロ) 阜通銀行ノ振華公司ニ對スル不當融資ニ依ル營業停止
(ハ) 利民銀行ノ不當貸出ニ付テハ尙ホ調査續行
右囤積事件ノ處罰ニ對シテハ一般ニ不徹底ナル措置トシ
テ不評、此ノ爲更ニ物價昂騰ス（小魚ヲ把ヘ大魚ヲ逃ガ
スモノナリ）

五月 三日 囤積主要商品治罪暫行條令ノ公布即日實施

イ、主要商品同業會員ニ非ズシテ主要商品ヲ賣買シタル
者及同業會員ニシテ會員ニ非ル者ニ主要商品（十八品
目）ヲ賣却シタル者ハ嚴罰ニ處スルコト
ロ、主要商品同業會員ニシテ主管官署ノ命令又ハ公會業

規ニ違反シ所持セル商品ヲ隱匿スル者ハ嚴罰ニ處スル
コト

右隱匿物資ハ爾今一ヶ月内ニ補行登記ヲ爲スコト

右處罰令ノ反響

イ、法ノ公正嚴格ナル運用ヲ一般ニ期待ス
ロ、主要商品十八品目ハ商統會ノ統制品目ニシテ之ニ依
リ商統會ノ^下各部機構結成ガ推進セラルルコト
ハ、囤積物資ノ一ヶ月間ノ吐キ出期間ヲ設ケ之ニ依リ囤
積物資ノ登記ヲ爲スカ又ハ市場ニ賣出スカ何レカラ選
バザルヲ得ズ囤積吐キ出ノ成果ヲ期待サルルコト

五月十二日 主要商品登記規則（實業部令）公布即日實施

S 1.1.1.0 - 27

2000-1

S 1.1.1.0 - 27

2000

0074

(1) 主要商品十八品目ニ付テハ (一) 所有者 (二) 倉庫業者又ハ受託者 (三) 擔保債權者 (四) 保證人 (五) 運送者ヨリ各申請シ登記スルコト

(2) 右登記ハ同業公會受理シ之ヲ各聯合會、更ニ商統會ニ報告スルコト

五月十三日

本規則ハ國積行爲ノ防止絶滅ヲ目的トスルモノナリ
物資調査委員會組織大綱 (國防會議決定)
第二次検査團ノ派遣デアリ調査委員ニハ現地陸海軍、大使館、憲兵隊、工部局關係者モ参加ス
一般ニ國積行爲絶滅ヲ期待セラレ其ノ速カナル活動ガ待望セラル

S 1.1.1.0 - 27 2001

0075

六月七日

端午節ノ決濟

此ノ決濟期迄ニ物資調査委員會ガ本格的ニ活動ヲ爲シ、國積ノ處理ヲ進ムルコトヲ豫定シ、之ト並行シテ日華銀行ノ貸付ノ引緊メヲ爲シ併セテ我方所有金條ノ操作ノ實施制ヲ開始ス

然ルニ物資調査委員會ノ本格的活動ハ七月十三日ニ至リ漸ク緒ニ付キ右物價對策上ノ好機ヲ逸シタリ

六月十九日

第一回物資調査委員會開催
委員會々議規程及事務局規定決定
物資調査官 (十四名)ノ設置決定

七月十日

反樞軸軍シシリ島上陸

S 1.1.1.0 - 27 2002



七月十三日 物資調査官ノ調査ガ實際ニ着手セラル

七月十四日 對支緊急經濟施策ニ關スル件決定

(大本營政府連絡會議了解)

七月廿一日 綿糸布ノ買上處理實施要領決定

(現地日本側機關決定)

七月廿七日 ムツソリーニ辭職

八月九日 收買綿糸布暫行條令ノ國防會議決定即日公布實施、收買
綿糸布實施要綱發表

八月十日 日本側所有者ニ對シテハ上大ニ於テ右ト同趣旨ヲ申渡ス

八月十四日 邦人所有綿糸布收買機關タル中華貿易聯合會ノ臨時綿糸
布管理事務局ガ事務ヲ開始ス

邦人所有綿糸布ハ八月十六日以降八月二十五日ヲ期限ト
シテ賣渡申請方發表ス

八月十八日 商統會ニ收買綿糸布辦事處ヲ設置シ同日收買綿糸布實施
細則ヲ公布實施シ、二十三日ヨリ中國側綿糸布收買業務
ヲ開始ス(補行登記モ併行)即チ二十三日ヨリ九月六日
迄ヲ賣却申込期間トス

九月一日 汪主席ハ聲明ヲ發シ綿糸布買上期間ハ斷然延期セス、違
反者ハ嚴罰ニ處スル旨強ク聲明シ策動筋ノ暗躍ヲ完封シ
賣却申請方勸奨ス、九月六日豫定通り買上期間ヲ切ル

8 1.1.1.0 - 27 2004

2003

8 1.1.1.0 - 27

0079

Yamashita

九月十四日 中秋節決酒

九月九日 伊國全面降伏、上海港内伊國船コンテベルテ號自沈ス

「参考」本春商統會へノ登録數量（綿糸布合算）

日本側	二〇三、五四九 梱
中國側	三二二、八八八
計	五二五、四三七

日華綿糸布賣渡申込數量左ノ通り

區分	綿糸	生地綿布	加工綿布	計
(イ)日本側 (八二五切)	七四六、九四 梱	七五四、三三 梱	四七七、七五 梱	一九七、八一 梱
(ロ)中國側 (九六切)	九三、一九四	三三九、一六	一一三、八八六	二五〇、九九六
(ハ)計	一六七、八八八	一〇九、三三八	一七、六六一	四四八、八八七

S 1.1.1.0 - 27 2006

S 1.1.1.0 - 27 2005

0077